

2022 年度入試 国語 第3回

問題		得点率 (%)	問題		得点率 (%)
①	問一	82.2	②	問一	66.2
	問二	72.6		問二	98.1
	問三	68.3		問三	35.2
	問四	38.7		問四	42.2
	問五	40.1		問五	35.7
	問六	92.6		問六	88.4
	問七	83.7		問七	70.0
	問八	86.1		問八	77.6

最高点 87点
最低点 35点

① 出典：筒井淳也『社会を知るためには』

問一 傍線 1 を含む形式段落を読むと、「このこと」は、リーダーたちにあてはまるとあり、段落の最後に「知識は取るべき選択や行動ホウシンに強く影響します。」とあるので、こういったことが書かれているイが正解です。他の選択肢ア、ウ、エはこの形式段落の内容とずれています。概ね良好でした。

問二 傍線 2 のある 21 行目から 42 行目まで「少子高齢化の問題」の説明です。設問はこの問題は何の具体例かを答える問題なので、逆に、この説明のなかで抽象化しているところを探します。そうすると、31 行目「実は、私たちの～ありません。」および 39 行目～42 行目「実際には、深刻な問題は～理解できていないのです。」という箇所がありますので、このあたりのことを文末が「こと。」となるようにまとめます。この問題は、文章前半の内容について問うているのですが、後半の内容を書いている答案も多く見られました。また、「この箇所より後の語句を用いて」とあるにもかかわらず、傍線箇所よりも前に注目した答案が散見されました。

問三 傍線 3 は「この」という語が付されているので、その前に注目します。この形式段落は 54 行目にある「分業」を具体的に説明したものであるため、正解は「分業」です。「協業」という答案が散見されましたが、ここは仕事を分けて行う点について述べているので「分業」が入ります。

問四 傍線 4 の直前に「豊かさをそれに携わった人に分配する際には」とあり、直後にも「儲かったお金を仕事をしてくれた人たちに配る」とあり、会社で仕事をした人への利益の分配に関する問題だということがわかります。そして、81 行目「しかしほんとうにこれらの基準が適正かといえは、そんな保証はありません。「よくわからない」というのが実態です。」とありますので、こういったことを文末が「問題。」となるようにまとめます。利益を分配する基準を「決めること」という誤答が多く見られました。

問五 93 行目から文章の終わりまでが、お金に関する世の中の「緩さ」の 2 番目の例です。同じ職場で同じような仕事をしていても、正規雇用の正社員と非正規雇用のアルバイトやパートの人では給与格差があるということを述べています。設問に「正規雇用」「非

正規雇用」は使用しないという条件があるので、「立場によって」などと言い換えて、文末が「こと。」となるようにまとめます。「不当な給与格差があるのに見逃されている」という内容の解答が多く見られました。

問六 接続詞などを入れる問題です。Aはイ、Bはア、Cはウ、Dはエです。

問七 漢字は楷書で丁寧に書く必要があります。概ね良好でした。

問八 この文章は、前半では、社会で起きる多くのことは、予想外であったり意図していないことであったりすることが述べられており、後半は、会社が働いている人に払うお金の問題を取り上げ、仕事とお金の関係の「緩さ」が述べられていますので、これらのことが書かれているイが正解です。他の選択肢では、アは「物づくりをする仕事と事務的な仕事に分けられ」、ウは「少子高齢化の問題のように、リーダーの知識不足が原因でうまくいかないこともある。」、エは「非正規雇用者の違法な労働」という箇所がそれぞれ誤りです。概ね良好でした。

② 出典：今井祥智『ぼんぼん』

問一 問題文にあるように、洋がプラネタリウムに驚いた理由はいくつもあります。8行目に「ところが、そこで思いがけないことをいいたしたのである。」とあるところから洋が驚いた出来事と考えられます。洋が驚いた内容は以下の通りです。

- 1 北斗七星の形が崩れる
- 2 北極星が別の星になる
- 3 十万年後の未来から現在におそろしい早さで戻る

選択肢のなかで、以上の③に合致するアが正解となります。イは洋次郎があくびをしたのは傍線部より後なので誤り。ウは「北極星の形が変わる」とあるが、形が変わるのは北斗七星なので誤り。エはプラネタリウムの操作に驚いている記述はないので誤りです。おおむね良好でした。

問二 「色」に関する語を使った成句の問題です。一はウ、二はエ、三はイ、四はア、五はオです。おおむね良好でした。

問三 「めずらしい動物を見る目つき」とあることから、この時の洋次郎の気持ちは「驚き」です。洋次郎は67行目から75行目にあるように「うへっ、やないか」と思ったり、少女の顔の白さに気を取られて呆然としたりしているだけです。一方の洋は59行目で少女に話しかけたり、77行目で握手したり、82行目で手を振り返したりしています。初対面の少女の前で立ち尽くすしかなかった洋次郎にとって、自分とは違い、少女と親しげにする洋の行動が驚きの対象であったことが、87行目「知らんちゅうたかて、握手したり、手ェふったりして、こいつ……。」という洋次郎の言葉からわかります。自分にはできそうもないことをした弟を驚きをもって見ていることを説明します。解答としては、洋の行動のあとに洋次郎の心情とを説明するという正しい構成でかけているものが多かったです。一方で、直前に書いてある「うらやましい」を答えている解答が大半を占めていました。

問四 「北斗七星がくずれる」というのは、1行目から30行目のプラネタリウムで見聞きしたことがもとになっています。5行目にあるように洋は北斗七星に関して「ゼツタイ」と思っており、北斗七星の形が変わると聞いて13行目「そんなアホなことが」と思って

います。洋次郎も14行目「ほんまかいな」とつぶやき、14行目から「兄弟の頭のなかには、まだ絶対に動かず変わらぬものとしての北極星と北斗七星が輝いているのだった……」とあるように、兄弟にとって北斗七星は絶対不変のものと思っていることがわかります。このことと、114行目で伯母から聞かされる父の怪我が重なります。116行から121行目には兄弟が思い浮かべる普通の父のイメージがあり、傍線部の直前125行目で「あのおちついたおとうちゃんが、そんなことになるなんて……」とあり、石垣に「でぼちゃん」をぶつけるという怪我が普通の父からは想像できないようなものであることが書かれています。したがって、北斗七星と父が絶対的な存在であるという点で重ねられると同時に、絶対的な存在が変わるといっても共通していると言え、解答には絶対的な父の存在が揺らぐことをまとめます。「どのようなことですか」という問いなので、文末は「こと。」とします。解答としては、状況を正しく読み取れているかどうかははっきりと分かれており、文章の読み取りがどれくらい正確かが現れていました。

問五 まずは「砂漠」という言葉が持つネガティブなイメージを捉えます。荒涼として孤独を感じさせる言葉です。また、124行目で伯母から怪我をした父に付き添って病院に行った母について伯母が「帰りし、おかあちゃんがよるさかい、ここで待っとんなはれや」と言ったにもかかわらず、128行目「おかあちゃんはなかなか現れなかった。」とあることから、父の付き添いが長くなって母が兄弟を迎えに来られていないことがわかります。母が長く病院にいなければいけないほど父の怪我が大きいことが推測できます。以上の出来事からの推測と、「砂漠」の持つイメージから、兄弟の心に不安が広がっているとわかります。解答としては、「砂漠が広がり始める」がどのような心情のことかを読み取れず、本文の引き写しになっているものが目立ちました。本文から推測する問題を苦手とする受験生が多かったようです。事実誤認も目立ちました。

問六 傍線部にある「そんなこと」が何を指しているのかを読み取ります。傍線の前129行目で、洋は目を閉じて怪我をした父の姿を想像しますが、130行目には60行目からで話した麦わら帽子の少女の姿にすり替わります。少女の目やほくろ、鼻などを「見えてきた」と表現するほどに詳しく思い出して、父のことはすっかり頭になくなっていきます。そのことに洋自身で気づき、父の緊急事態にもかかわらず、父ではなく少女のことを思い浮かべていたことを「父にすまない」と思っているとわかります。したがって、ウが正解です。アは少女の想像に言及していない点、イはパンのことに言及している点、エは父の願いや母がいつ来るのか考えていることは本文にない点が誤りです。おおむね良好でした。

問七 修飾する語を選ぶ問題です。Aはイ、Bはウ、Cはエ、Dはアです。おおむね良好でした。

問八 ウの前半部分は100行目から110行目の記述と合致し、後半部分は111行目の「きて早々だすけど、二人ともびっくりしたらあきませんで……。」、123行目の「その帰りし、おかあちゃんがうちへよるさかい、ここで待っとんなはれや。」などから兄弟が大きく動揺しないよう配慮している様子と合致します。したがってウが正解です。アは「プラネタリウム」の解説者が「洋次郎も洋も知らないことばかり話してくれた」という部分が誤りです。イは「心の底では洋を嫌っている」という部分が誤りです。エは洋が「数万年後の将来に天体が変わることも当然知っていた」というのが誤りです。誤答は「ア」が多かったですが、おおむね良好でした。